

平成22年度学校経営方針

荒川区立赤土小学校長 安齋正彦

昨年度までの教育実践の積み重ねと反省をもとに、新年度の計画が樹立され教育活動がスタートした。公立小学校の基盤に立ち、特に今年度は新学習指導要領移行措置2年目の主旨を踏まえ、荒川区の学校教育ビジョン「未来を拓き、たくましく生きる子どもを育成する」ために、以下の3点

○子ども一人ひとりの可能性を伸ばす ○豊かな感性や創造力を育む ○社会的自立の基礎を培う

を踏まえ、教育目標の達成のために、全職員が一致協力して本年度も「赤土小の子ども」の変容を目指し一層の努力を図っていく。

1. 経営の基本方針

未来の社会を形成する子供の資質として、人間尊重の精神、心身の健全、国際社会の理解、自主自律の確立は不可欠である。そのためには生涯学習の理念のもとに一人一人の徳性、体力、学力の向上を目指す学校教育目標の具現化に努力していく必要がある。

もとより教育は人にあり。学校は組織体であり、全員が信頼しあい、和と協力のもとに真の愛情をもって率先指導にあたってこそ、生き生きとした学校教育が推進されるものと考ええる。

【1】学校教育目標 および 荒川区学校教育ビジョン施策の柱との関連

よく考え、実行する子(重点)……	1 個性や能力を伸ばす教育を進める
思いやりのある子……	2 自分や他人を大切にする心の教育を進める
元気な子……	3 健康や体力づくりを進める

【2】求める児童の姿

本来教育は効率や結果を求めるものではないにもかかわらず、競争や格差社会の中にあって、その波動は児童の教育にも及んでいる。現在の児童は、結果や比べることばかりに目を奪われ、“し合う”という相互の交流が苦手になっている。“し合う”という交流のないところには楽しみも、喜びも、また真の友も得られない。そこで“し合う”態度を育て、人としての生きる喜びを感じさせ、自分と関わり合う相手や周囲への働きかけを通して一人一人の個性や能力を伸ばす(今年度の重点)きっかけとしていく。

- ① **話し合う**…あいさつは、心と心の垣根をはずす手始めであり、その後の深め合いは、話し合うことにかかっている。話し合うきっかけとなるあいさつは「会釈」などから入るなどして実行に移していく。
- ② **学び合う**…進んだ子は立ち止まり、遅れた子に手をかして共にあゆみ、切磋琢磨の実をあげる。少人数指導も教師の意図を全員に浸透させるためには学び合いを基本に改善していかねばならない。個が集団の中で埋没せずに、個の考えの交流が図られるようにしていくことが大切である。研究を通して実現を図る。
- ③ **遊び合う**…遊びは生活を学ぶ術である。遊ぶことによって真の友が得られる。子供だけでなく教師も交じって遊びを共有し合うことが信頼関係を築く上で重要である。遊びの場を広げていく。
- ④ **協力し合う**…協の字には三つの力が並んでいる。－プラス－は二ではなく、相乗的効果が期待できる。そのためにも一人一人に役割を与えたり目的意識をもたせたりすること、そして個々の行いに対して認め励ますことが何より大切となる。
- ⑤ **助け合う**…人の字のしめすように人は一人では弱い、支えあるものがあると強さを増す。共存共栄の社会を築き、持続可能な社会を創っていくためにも、常に互助の精神を基本としていく必要がある。

【3】教師の心の在り方

- ・**心豊かに接する**……ゆとりある教師の心は、子供たちに安らぎを与える。教師自らが心の角をとり、円く明るく感謝の心に切り替えて生きていくことが基本である。
- ・**愛情豊かに接する**……愛情は何にもかえがたい心の滋養である。子供一人一人の笑顔を願い、求める心よりも与える心を優先にして、温かく包みこんでいく。
- ・**言葉豊かに接する**……最大・最高の言語環境は教師の言葉である。相手のことを常に考えて思いを巡らしていれば自然と語彙が気持ちのこもった豊かなものになっていく。
- ・**表情豊かに接する**……豊かな柔和な表情は、教師と児童の心を結ぶ鎖である。表情は心の現れでもある。常に教師は自らの心を振り返り周囲に与える影響を感じ取っていけるようにする。

2. 学校経営

経営の基本方針をもとに「学校は、児童のためにある」という基本にたち、全校職員の理解と協力を得て、児童を中心に地域父母の期待にそうよう、今年度は「あいうえお学校」の志向を継承しながら『子どもの考えを生かした経営』を基本に「よく考え実行する子ども」の育成に努めていく。

(あ) 明るく 温かい 学校

この基本は「人間尊重の精神」に尽きる。児童・職員・地域父母が互いに認め合い
弁えをもち、本分を守り、しかも相手の立場を理解し合う、このような学校を目指す。

① あいさつと会釈と、よい言葉づかひの奨励

あいさつや会釈そして言葉づかひは、人間関係を左右する。

② 児童相互の信頼と連携

差別用語や差別的行為は厳にいましめたい。人間尊重、国際協調の精神を育てる上でも重要な課題である。

③ 職員相互の協力態勢

学校職員にはそれぞれ本務がある。互いに協力し合う本校の態勢を発展させる。

④ 学校と地域父母との連携

地域父母の願いを肌で感じ、相互信頼の心を育て、子供の健全育成に努める。

(い) いそしみ合う 学校

学校の教育目標「よく考えて実行し、思いやりのある元気な子」が、全教育活動を通して具現できるように計画・実践・評価を積み上げ、活力のある学校を目指す。

① 「1時間1時間の授業の充実

教材研究の充実を図り、学習目標を明確にする。基礎的・基本的な学力を確実に身につけ実生活に活用させるために子供の考えを生かした指導を進めることで「なるほどわかった」「やれはできる」という喜びを体験させる。そのためには、学習過程では「話し合う・説明する」といった相互の関わりを重視し、個・小集団・一斉の学習形態のバランスを大切にすることで、日常より「個の学習の成立」を目指していきたい。

② 自己実現を図る場の工夫

全教育活動で実行することは勿論であるが、クラブや委員会、集会活動や学校行事の中で常に相手を意識した児童の創意を生かし、認め、励まし、個々の児童の能力や特性が発揮される機会を工夫し自治能力を評価してあげることで、やりがい感(自己効力感)を高める。

(う) 美しさのある 学校

「環境は人をつくる」といわれるが、環境が児童の人間形成に及ぼす影響は大きい。そのためにも、校舎も校庭も整備され汚れない学校を目指す。

① 教材教具の整備と活用

整理整頓されてこそ、互いに使用し合える効果的な活用が期待できる。

② 教育環境の設営

教室はもっとも活用度の高い子供の生活の場である。発達段階や学級の実態に応じて最高の生活環境となるよう設営されるものである。掲示物の工夫・教室内の美化等、子供たちの創意も取り入れていく。

③ 緑豊かな環境づくりと校地の活用の工夫

現在、限られたスペースであるが、花壇や学年学級園が用意されてある。情操教育や勤労体験の面からも、職員・児童の協同姿勢で緑化・美化を推進していく。

(え) 衛生的に いきとどいた 学校

学校は、生命尊重の精神のもとに、安全面・保健面が十分に配慮されなければならない。

① 個々の児童の性格・行動・障害等に応じた安全管理

特に、欠席理由の把握・健康観察に配慮し、初期対応を正確かつ敏速に進める。

② 学校の物的環境の安全管理・点検

行き届いた点検活動を目指す。更に、施設・備品・教材教具・通学に留意する。

③ 安全を基底とした教育活動の計画と実践

危険度の高い理科の実験、家庭科の学習、プール指導は細心の準備と指導を、また校外学習は、実踏により周到な計画と実践が進められるようにする。

④ 自らを守る態度の育成

避難訓練は実践しているが、安全な遊び・不審者やインフルエンザ対応・安全な登下校の習慣化を図るなど、自らの安全を自ら確保する態度を育てる。

(お) 教え合い磨き合い、教師自らが成長していく 学校

教育愛は教師の基本理念である。児童に対する公正無私な学習指導や生活指導の場で、働き掛ける高い指導技術を目指すものである。教育の専門性もここにあり、研修の義務が課せられている所以である。

① 学年・学級経営の充実

学年会では、十分に意思の疎通を図った上で、互いに経験やアイデアを生かし研究や指導技術を磨き合う場所として活用していく。

② 校内研修の充実・強化

今年度は教科を理科・生活科に絞り、「自ら考え、ともに学び合う子の育成」を研究主題として、一人一人の学習意欲の喚起と問題解決能力の育成に取り組む。研修は、子供に始まり子どもに返るものである。全員が授業公開をしたり実技研修を受けたりするなど、現場にいる教師として、直ちに授業に生かせる研修としていく。

③ 対外研修への積極的な参加を

荒教研・都研・研究所・他校の研究会・若手教員研修等に進んで参加し、自己を磨き研修内容を授業改善に役立て、子供一人一人に返していく。

④ 人間性を高めるために

専門分野ばかりでなく、文化的・人間的な教養を積むことも大切な研修である。

3. 今年度の学習指導

昨年度までの成果と課題を受けて

- 全体的に「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」については理数の面で低下している他はおおよそ普通である。
- 各教科とも「学ぶ意欲」と、「教科学習に対する関心・意欲・態度」については低く、全体的に高め、児童全員の学習意欲を喚起するための指導法の工夫が不可欠である。
- 学ぶ意欲を高めることで、「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」の能力が一段階レベルアップし、より確かなものとなる。

今年度の重点的な取り組み

1、私の考える授業の基本原則・・・「個」の学習の成立

- どの教科道徳領域でも「何のために、誰のために」という意識を明確にもたせると同時に、一単位時間の中で「学び合い」の場を必ず位置づけ、互いの考え(よさ)を認め合う場を通して、個々の自己効力感(やりがい感)を高めていく。

→ ~のためにやればできる。もっとやってみよう。やればできるかもしれない

これらは本校の研究主題「自ら考え、ともに学び合う子」の育成そのものである。

2、私の主題のとらえ方

- 「自ら考え、ともに学び合う」とは教師の学習指導レベルで「個の考えを生かしながら意欲的に学び合う授業」として考えていく。

3、学校評価（自己評価・学校関係者評価・評価結果への説明責任）の活用について

- 一連の学校評価の結果を通して学習指導法の改善に役立てていく。

